

U.S. Indicators

発表日: 2021年10月25日(月)

米国 成長加速も強まるインフレ圧力(10月PMI)

～投入、産出価格が一段と高水準に上昇～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

21年10月のIHSマークイット米国総合購買担当者指数(PMI)の速報値は、57.3と前月比2.3%p上昇した(拡大縮小の分岐点50)。製造業が59.2と前月比1.3%p低下した一方、サービス業が58.2と前月比3.3%p上昇し、全体を押し上げた。ワクチン接種の進展や新型コロナウイルスの感染拡大ペース鈍化を背景にサービス業主導による経済成長の再加速を示している。速報値は集計期間が10月11日～21日と10月中旬までの企業の状況を示しているが、10月末にかけての感染者数の鈍化によってサービス業を中心に企業活動がより活発化していると考えられることから、確報値で上方修正されると見込まれる。

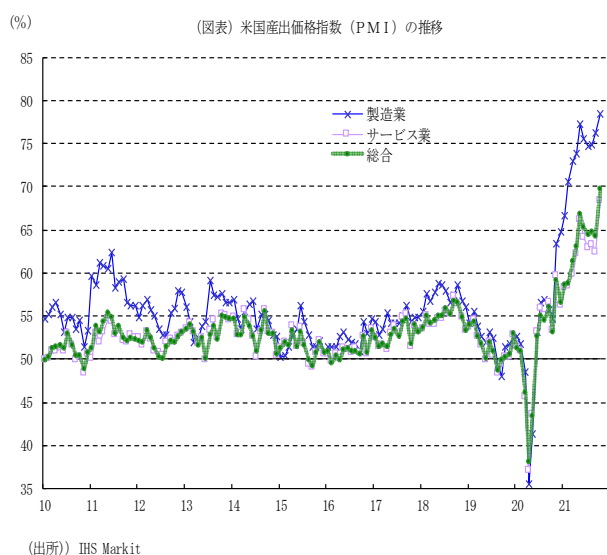
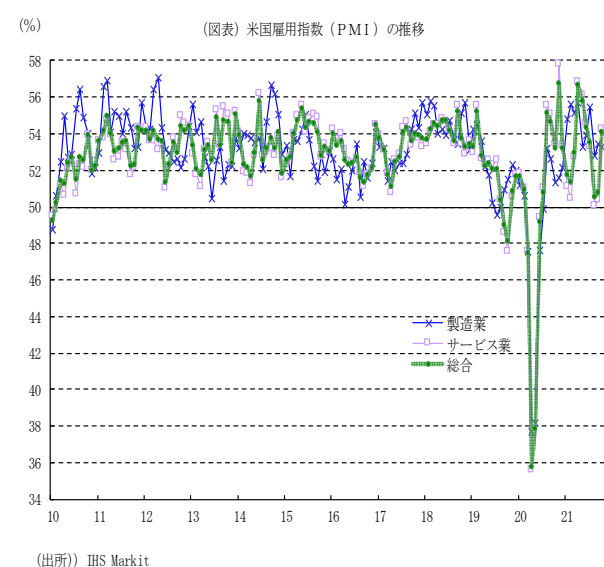
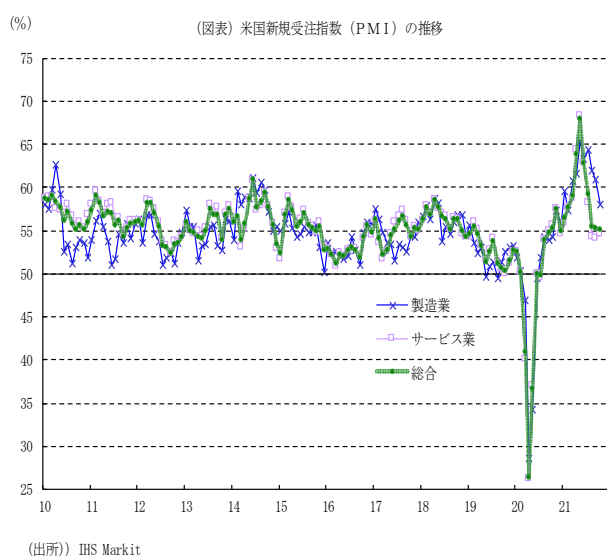
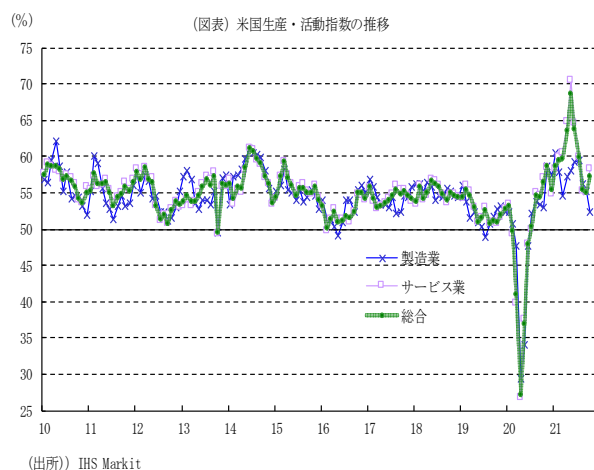
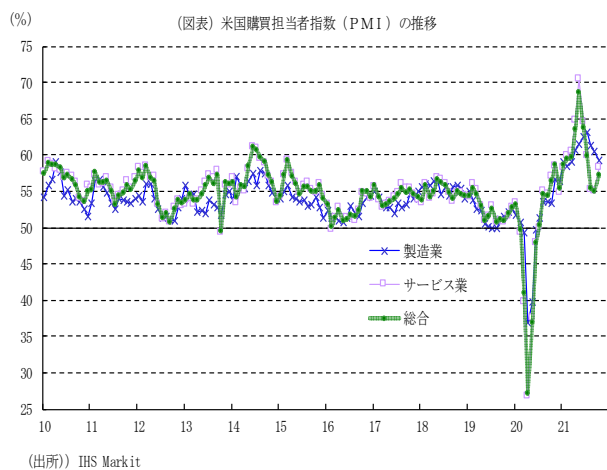
新規受注、生産などが鈍化したため前半から低下しているものの、高い水準を維持しており、供給制約の強いもと活発な企業活動が持続していると判断される。また、労働力不足が懸念される中、10月の雇用指数が高い水準に上昇したことから、10月民間雇用者の増加ペースの加速を示唆している。

一方、インフレでは、製造業、サービス業ともに産出価格指数が過去最高水準に上昇しており、インフレ圧力が一段と強まっていることを示している。また、投入価格指数はより高い水準に上昇しているため、企業のコスト負担はさらに強まっている。

製造業PMIの構成項目をみると、在庫が53.8(前月52.8)と上昇した一方、新規受注が58.0(前月60.8)、生産が52.3(前月55.2)、雇用が53.2(前月53.5)と低下した。寄与度では、入荷遅延が前月比+0.20%p、在庫が前月比+0.10%pの押し上げ寄与となった一方、新規受注が前月比▲0.85%p、生産が前月比▲0.72%p、雇用が前月比▲0.04%pの押し下げ寄与となった。また、構成項目以外では輸出受注が50.7(前月54.9)と大幅に低下しており、米輸出の鈍化を示している。

サービス業では、活動指数が58.2(前月54.4)、新規受注が54.6(前月53.4)、雇用が54.3(前月49.9)と上昇し、高い水準を維持した。また、見通しを示す「将来の活動指数」が68.6(前月70.6)と高水準を維持しており、企業の先行きに対する楽観的な見方は強いままである。

四半期では、10月に製造業が59.2と7-9月期の60.3から鈍化した一方、サービス業が58.2と7-9月期の56.7から上昇した。サービス業が牽引する形で総合指数が57.3と7-9月期の56.8から1.4%p上昇していることから、10-12月期の実質GDP成長の再加速を示唆している。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。